

革のおはなしと メンテナンス体験 ～つくる責任・つかう責任～

12 つくる責任
つかう責任



日時 令和7年11月27日(木曜日) 18時30分～20時30分

場所 かごしま環境未来館 1階リサイクル工房

講師 飯伏 正一郎 (RHYTHMOS 職人兼デザイナー)



人間の食肉文化の副産物として出てくる材料である「革」。

講師は、食肉にならなければ、もっと長く生きることができるはずの動物の皮を無駄にすることなく製品を作ることによって「動物の命を形に残す」、さらに、その製品はメンテナンスをすれば「もっと長く使う(生きる)ことにつながる」という事を伝えようとSDGsの12番『つくる責任』に取り組んでいるとお話してくださいました。



～受講者の感想～

- ・環境問題など「革」の背景を知ることによって、より革製品を大切にしようと思いました
- ・センシティブな問題もわかりやすく、重くなりすぎず教えていただけてとても良かったです
- ・日常生活で使えることを教えてもらえた。これから革製品を長く使うことができそうと思いました。
- ・先生の話しに感動しました。



講師が革製品にするために仕入れる革は牛の形をしています。よく見ると、血管の跡や皮膚炎の跡が分かります。無駄にせず、すべてを使うそうです。

ご参加のみなさま、ありがとうございました。